

令和3年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関するワークショップ（第1回）

【 議 事 概 要 】

日時：令和3年11月5日（火）10：30～15：00

場所：①現地視察（モアショロ計画路線）②ワークショップ（足寄消防署 2階研修室）

出席者：

《ワークショップ参加団体》

団体名	氏名	備考
帯広ウチダザリガニ・バスターズ	鏡 坦	
川と河畔林を考える会	高倉 裕一	
雌阿寒自然塾	岩原 榮	
日本野鳥の会十勝支部	飯嶋 良朗	懇談会構成員
十勝自然保護協会	川内 和博	
NPO法人 十勝多自然ネット	坂入 隆	

《有識者構成員》

氏名	専門分野	所属等
加賀屋 誠一（座長）	自然災害科学、都市工学	北海道大学 名誉教授
山本 純郎	鳥類（シマフクロウ）	環境省シマフクロウ保護増殖委員
飯嶋 良朗	鳥類（一般鳥類）	日本野鳥の会十勝支部 監査
持田 誠	植物	浦幌町立博物館 学芸員
澤村 寛	地質	足寄町動物化石博物館 特任学芸員

《オブザーバー》

氏名	所属等
上村 兼輔	環境省 釧路自然環境事務所 阿寒湖自然保護官事務所 国立公園管理官
小長井 崇大	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署 主任森林整備官
高久 雄太	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署 森林整備官
村石 靖	足寄町役場経済課商工観光振興室 室長

《帯広建設管理部》

氏名	所属等
上村 明弘	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室長
寺越 孝則	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室地域調整課 地域調整課長
猪又 博高	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室道路課 道路課長
村川 博計	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室道路課 主査（道路）
松本 俊春	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室道路課 主幹
深澤 亮雄	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室道路課 主査（道路第4）
古川 友啓	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室事業課 技師
高橋 凜太郎	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室事業課 技師

## ワークショップ 意見交換会

### 意見交換

#### 【植物（外来種-アメリカオニアザミ）】

**加賀屋**：初めに、WS参加団体の代表として来られている方々にご発言いただきたいと思います。

**鏡**：やはりアメリカオニアザミの駆除、それは生態系を攪乱していくことにどう対処したらいいのかという問題の深刻さに気付かされ、認識を新たにしています。皆さんの意見を伺いたい。

**加賀屋**：今のご意見はこれからディスカッションの内容になると思います。問題の深刻さを意識したということで伺いました。

**高倉**：午前中、現地でアメリカオニアザミの現状・課題について説明を聞き、見て来ました。さらに午後の説明も受けました。それぞれ色々な方法があるけれども成功した事例が見つからないということでありました。今、考えられる割と可能な方法を順序別でも結構ですから、現地に一定の試験区のようなエリアを設けて、試験をしながら考えていくというのは如何かなと思いました。

**加賀屋**：今のご提案は、現地で適当な場所を選び試験をしながら、ある程度の最適解を求めていく方法をやってほしいというご意見でした。

**坂入**：資料 P25・26・27 のアメリカオニアザミの生息状況ですが、6月、8月、9月やってこれだけ増えているということですが、実際は9月の342株が元々あったということではないのですね。

**ズコーシャ**：6月の時点ではまだ芽が出ていなくて、株が小さ過ぎて確認できなかったというのが大きくなって確認できたということがあると思います。そして資料-7、P27の一律丸で示していますが、小さな株のものと大きくて1年前から生えていただろうもの、花や実がいっぱいについている株も混在していますので、少なくとも去年の段階で種はここに飛来していてそれが今年出た状況かと思います。

**坂入**：資料-7、P27の図をみると分かるように、赤いラインのエリアは伐開した所ということです。今後、道路を建設していくにあたって用地買収が進みますが、中に道路の絵が書いてあり、その幅位でしか刈らないと思いますが、その外のエリアのアメリカオニアザミは勝手に入って抜いたりできるのでしょうか。

**ズコーシャ**：今回は地権者の方に調査のために入る許可は頂いています。今後、何か別のことをするとなるとやはり地権者の了解を得ないとできない。

**坂入**：今後道路を作る上で、これだけ用地外にアメリカオニアザミが群生しているということは道路ができた時に法面に飛来してきますよね。先程、現地で駆除方法など聞きましたがなかなか問題点多そうで考えたのですが、焼くのも大変だし刈ることも大変だと色々処理方法を聞きました。それで、現地で刈った時に破碎してしまう方法もありかなと。それほど小さくなくても破碎できる機械があると思います。それで破碎して堆肥化すれば、花が種になる前に駆除できるかと思うのですが、植物について知識はないが少し思ったことです。今後こういうものを建設していく上で、出てくるものは仕方ないので出たものに対してどうするかを検討した方がいいかと思います。

**加賀屋**：今、問題提起のような形ですが、道路を建設すると、道路の法面などはある程度管理できる。ところが相当広い範囲で外来種が拡がっている、それについて対応をどうするか、これは

道路の計画の枠外になるのかなと感じがするのですが、その辺は後でまたご意見を伺いたいと思います、それが一つ。今の意見のように完全に肥料化するなどの方法も一つあるということで、今後の対応の仕方として検討することも必要かなと思います。

**澤村:** オニアザミは大変だなと思いながら聞いておりました。オオムシクイの資料の地図を見て、先程の民有地を伐開して木が伐り払われたのはどの辺までの範囲になるのでしょうか。民有林と国有林の境目あたりまで木を切ったということなのですね。国立公園はどの辺ですか。急に曲がったところか。大部分が国有林の中ということであれば、あのようになりが伐られる心配は特になくていいということですね。今後オニアザミがどんどん広がる心配はないし、全体から見るとそれほど広くはない。

**飯嶋:** 個人的には、オニアザミの駆除は大変だなと心から思いました。

**加賀屋:** 持田さんには今までアメリカオニアザミの件で、ご意見色々出ていますがその回答も含めて総合的なご意見をお願いします。

**持田:** 午前中に現地を見ていただきました。夏にも一度、調査の様子を見せていただきに行きました。その段階ですでに、大変だと思いました。

今日、地図で三か月にわたって GPS でアメリカオニアザミの推移を落として頂きました。まず、この調査はすごく大変な労力がかかっている、このデータを実際に採られたズコーシャの方には本当によくやっていただいたと思います。こういう結果、きちんと追跡できるかどうかは現状を知るうえで非常に重要だと思います。結局、道路を 1 本こういうところに作る、裸地を作るということはこういうことだ、とよくお分かりいただけるデータだと思いますし、道路を作るということは作る時にこういうことが起きるわけですが、第 1 回目に参加した時から申し上げていることですが、道路は作った後の方がむしろ問題なわけであって、こういったことは永久に道路がある以上は何らかの形で影響として効いてくるわけです。それに向けた対策をどうするかを考えなければならぬということを改めて実感しました。

アメリカオニアザミですが、現地で北農研（北海道農業研究センター）の試験結果からアークさんからも説明ありました。もう一つ、北開水工の田崎さんという方が、昔、知床でエゾシカに対するアメリカオニアザミの応答についてデータを採られています。この結果を見ると、今日もオニアザミ以外は在来種も外来種も食い尽くされてしまう勢いになっているという結果が出ていますが、知床では実際にその影響を調べるために 1.5 メートル四方の鉄のカゴで植生を覆ってエゾシカが食べられない状態にして、柵の内側と外側でアメリカオニアザミの量がどのように変化するか試験が行われています。この結果を見ると、柵をかぶせてシカが入れなくしたところでは、翌年からすぐにアメリカオニアザミの量は減っていて、3 年後位から全く見られなくなったということです。つまり、シカが植生に影響を与えないようにするとアメリカオニアザミを覆ってしまうような競合する種類の植物が周りから再生して、そのような競争にはアメリカオニアザミは非常に弱いので、シカの採食さえなければ比較的早期にこれは衰退していくのではないかとデータが出ています。

また、先程の坂入さんの質問にも関係するのですが、ここにあった約 300 個体が、一体、いつから在るのかということですが、森林が伐採されたのは昨年秋なので、基本的にはそれ以前から森林にあった個体と伐採を契機に侵入してきた種の存在がかなり大きいのではないかと思います。アメリカオニアザミの種についてはかなり休眠が弱い。つまり、生き残る確率は少ない種だと言われていて、報告では 2 センチくらいの土の厚さの所に種子が入ると 2 年後の生残率は 1%

くらいまで落ちてしまう、死んでしまうということです。タネで生き延びる年数は相当短い植物だということです。また、発芽に対する光要求性がかなり高くして他の植物が少しでも再生してきて実生の段階で覆われてしまうとなかなか生きていけないし、発芽自体がかなり抑制されるという報告も見られます。植生をどのようにエゾシカから守るかということが今回の調査結果をみて改めて非常に重要だと感じています。

今後のモニタリングですが、法面にいかにエゾシカが侵入しないようにするかという方向がこの対策を考えていくうえで、一つ新たな課題として重要かと思います。もし現地で試験を行うのであれば、今、知床で行われた結果と同じようにアメリカオニアザミを含む周辺の植生をある程度一定の柵で覆って、シカの影響がない中とある中で、どのようにオニアザミを含む植生が変化していくかというデータを採っておく必要があると感じました。これは可能かどうかについては検討いただくこととなりますが、先程、ズコーシャから報告のあった通り、色々な対策を打っても結局、エゾシカにやられてしまっただけでは全く意味がなくなってしまいます。そこをどの位コントロールできるかというようなことも併せて検討していく必要があるのではないかと感じた次第です。

ちなみに先程、アメリカオニアザミと一緒に生えていたハンゴンソウという草があります。これは在来種ですがエゾシカが食べません。フッキソウというのが根元に生えていますがこれもエゾシカは食べません。絶滅危惧種で今回出ているクリンソウとかオオサクラソウとかそういったものもエゾシカは食べない。特にハンゴンソウは、この知床の報告ですとエゾシカの存在する・しないに拘わらず現存量に全く変化がなかったというデータが出ています。ハンゴンソウを中心とする在来の高径草本が再生していくことで、ある程度アメリカオニアザミは抑制できるのかなと思います。導入初期にどれくらい在来植生の再生を保護できるかということと、その後の植生の回復に結び付けるような播種なり移植なりを並行的に検討していくことが重要かと思います。

冒頭申し上げたこととも関連するのですが、オンネトー地区の道路環境保全会議はこの規約を見ると工事が完了するまでとなっていますけれど、実際には工事が完了した後のモニタリングと対策が恐らく重要になってくるのかと思います。この道路が作られることによって下流側にある外来種とオンネトーの国立公園を外来種の回廊でつないでしまうというのが、一番よくないことなので、そこをどのように抑制していくかということは恐らく工事期間中よりもむしろ工事が終わった後、延々と続いていく課題になります。その辺りも含めたモニタリングが必要かと思います。

**加賀屋：**これからの方向として我々が考えなければいけない部分をかなり説明していただきました。エゾシカの問題、これはここだけでなく全道でエゾシカと自然とがどうすれば両方が成立するか考えていく必要があるでしょうし、植生にも影響が非常に大きいということが今回の調査等で分かったわけです。そういうことから言うとやはり今後は例えば、持田さんがお話したようにエゾシカが嫌いな植生を改めて考えていく必要があると感じます。私は素人ですが、先程、少し見に行くとオニアザミの下にクマザサの群生があってそこにはあまりオニアザミがなかったような感じがして持田さんにお伺いしました。クマザサの群生が表面を覆っていますので、恐らく中に種子が入ってもそれは育つことがあまりないのかなと思います。場合によってはカバープランツのようなものも難しいということは多分あると思いますが個人的には思いました。

## 【植物（在来種導入）】

**川内：**資料-7、P18 の在来種導入部分のお話ですが、候補種が出てきているという事ですが、実際にはここを絞っていくような話は分かるのですが、候補種を1種類に絞るのか或いは何種類かに絞るのか、その辺がよくわからない。

**ズコーシャ：**一種類に絞るか何種類かに絞るかも含めてまずは種子の数を今年は調査している所です。種の数が多ければある程度の種類を導入して色々な多様性を確保することもできますし、全く確保できないという状況であればやり方を考えていかなければならない。まだ検討している途中の段階で何種類確定という話には未だなっていません。

**川内：**法面に吹き付けるのか。

**ズコーシャ：**それも含めて⑤のところでは法面の面積と種子の数が分かると、例えば吹付をやった場合にはどれ位、平米あたり必要かという種子の量が算出されますので、吹付で可能であれば吹付かもしれないし、種子が足りないということであれば、全面吹付にすると在来種の種子がかなりもったいないことになりますので、限定的に植生土嚢とかを置いて導入するなどの方法も考えていかなければならない。それにつきましては種子の量がある程度確定してから具体的に候補とかを考えて、第二回でご報告をしたいと思います。

**川内：**べらぼうな法面ですよ。そもそも足りないのではないかと思うのですが、調べないと分からないということですか。

**ズコーシャ：**そうですね。クサヨシとオオヨモギに関しては、まだ計算はしていないので確定的なことは言えませんが、量としてはある程度確保できているかだと思います。全域に播くべきなのか、あるいは溶岩の所とかそうでない所とか色々区別がありますので、どういう所でやっていくべきなのかということも今後考えていきたいと思います。

**加賀屋：**今のお話は資料-7、P18 の次回WSにて報告というところで、ある程度、量による可能性が確定されたら、こういう形の法面には付けられるというご提案をされる可能性があるのですね。ということでまた次回、今のご質問に対してはもう少し具体的な話が出てくると思いますのでご了解頂きたいと思います。

**持田：**先程、川内さん、十勝自然保護協会からご質問ありましたが、在来種の導入候補種について、確かにここに上がっている種類で実際に区間全体を考えると全然足りないのではとは確かに直感的にはあるかと思っています。今の所はまず発芽してどのようなものが使えるかということ、現地からまず在来種を確保して法面に導入していくにあたり、種子繁殖がどのような形で可能なのかということ知るために、実際現地でのどの位在来種の種子が確保できるのか、実際の発芽能力について試験を頂いているものです。これが再生に向かってそのまま使われていくというようなものではなくて、現段階で候補となり得る植物がどの位あり、実際その中に現実的に播種という方法で使える植物があるかを、確かめている段階であるのご理解いただければいいかと思っています。

やはり、種子の発芽率などを考えると獲得できる種類の実際の現存量から考えると、それだけで植生の回復と外来種の導入を阻むということを実現していくのはなかなか難しいかと思っています。現実的にはこの他にさらに栄養系植物、種ではなくて根茎で増えていくクローンの植物、そういったものの移植なども今後は考えていかなければいけないと考えてはいます。まず、現段階では種子で使えるものはこれ位です。データを見る限りではここに挙がっている種類全体はかなり量的には弱いというか、再生力的には外来種の抑制につながる形でそのまま導入できる種類というのは非常に少ないかなと思います。

川内：これは持田さんへの質問です。先程現場で例えばササという話がありましたけれど、ササだとどういう風なことを考えますか。

持田：ササを法面の維持に活用している事例は実際にあります。ササの根茎を移植してそのままササ植生を移設するような形で再生を促す方法はあります。このWSでも何回か前からササの話は時々出てくるのです。私も効果は高いと思います。ただ、現場でそれだけのササが確保できるかどうか、この道路の場合はなかなか難しいのではという指摘がありました。ササだけで考えることは現実的には難しいのではないかと議論があったかと思います。その辺りがなかなか難しいかなと思っています。

川内：根茎の移植という話がありましたけれど、私は去年室内の会議は出られなかったのですが、現場視察には出ました。そこで吹付候補種について現場でお話があり、そこで私も少し質問しましたが、種を播種してということで全てそうなのかと思いましたが、例えば根茎とか木本系のものを移植するのは面倒だからやらないのですか。

持田：面倒だからというよりも現段階では賦存量、種でどの位播きだしができるかというようなことを計画として、先ず、第一に検討していることですね。

川内：持田さんに伺う話ではなかったのかもしれませんが。他の場所で色々なことをやられているのですからここだけの話ではないと思ったりするのですが。去年も同じような話をしましたけれど、フッキソウなどの根茎の移植などはやはりマンパワーが必要なので面倒なのかなと思って、種で一気に入った方がいいのかと、そういうことなのですか。

加賀屋：法面植生の一般的な話ですね。

ズコーシャ：栄養繁殖という方法を全くなくしているということではなく、先ず賦存量、種子からの再生を検討した上で必要に応じてという所だとは思いますが。そういう段階にあるということ。ササにつきましては生育している場所が限られているのは事実で、フッキソウについて種子からということを検討はしているのですが実際種子は少ない。

川内：種子がかなり少ないというのは分かります。わかるので根茎の移植などはできないのかなと思います。

ズコーシャ：根茎を移植すると同じかどうかは別なのですが、元々の緑化の工法として土羽土工、すでに何回か前の検討会でドーコンさんからも説明していたところですが、現地の表土を利用してそれを張り付けるという所が、現地の根茎を含めたものの移植にある程度は相当する。それがどの位までなのかは分からないのですが。それが一つ根からの復元を見込めるのかなと考えています。

川内：今までの議論で多少出てきたかと思いますが、ただ単に種子を法面に吹き付けるということはある程度、同時に周りに現在あるものの飛んでくるものの期待ということもあるのだという話も出てきたと思うのですが。その時、私は気になったササは一面に拡がると入ってくる種子は発芽しにくいのではないですか。

持田：そうですね。ササは非常に抑制効果が高いと思います。一般的に道路工事をやり、そこで剥がされた表土や、他の場所から、要するに表土の巻き出しをして再生していく方法と、実際にササを張り付けていく方法は、実際にとられている箇所がたくさんあります。今回の工事区間の場合は、いわゆる土でできた区間に道路を作る場所ではないという所が大きいかなと思います。非常に母岩がしっかりしているいわゆるガレ場の所を道路工事していくのでなかなかまとまって表土を確保できないとか、ササをまとまって移植するような環境の所を道路が通っていない。そ

ういう場所に作っていくにあたってどのように再生誘導していく植物を選ぶかというのが非常に難しい環境にあるということで、現在は種に関してズコーシャさんに検討をいただいている所です。当然、それだけで植生の復元や外来種抑制は効果的ではありません。また、在来植生の回復ということを考えるとそういったことが重要になってくるのですが、同時に法面としての強度をどれだけ保つかという道路的な部分も含めて、より効果的な植生の誘導法を考えると、まだまだ検討していかなければことはあるだろうと。あくまでも現段階では賦存量という観点から、現場の種子繁殖可能な植物について選定をいただいているところなので、引き続き検討していかなければいけないことだろうとは思いますが。

### 【鳥 類】

**川内：**資料-7、P42 のオオムシクイの話、確認したとありますが、ここの環境はどんな環境なのですか。またオオムシクイそのものがどんな所にいるのですか。

**北開水工：**オオムシクイの確認された環境ですが、補足地点とステーション 2 番で確認されています。補足地点の方は針葉樹林の中にある林道の中で調査を実施しています。ステーション 2 番も針葉樹に囲まれている広場のような箇所になります。

**川内：**一般的にこういう場所ですか、繁殖とか。

**北開水工：**オオムシクイのいる場所は森林性ですので環境としては合っているかと思います。

**飯嶋：**鳥についてですが、前回も申し上げたように、調査を続けていくというのは大事なことで、新しい記録が次々に出てまいります。このような調査法を採っているということは、この工事のためだけではなく、今後の工事の範ともなるとお思いますので、続けるべきであると思います。

新しい種は数種出ております。タンチョウは現道付近で産卵まで確認されています。これは今後同じ場所で営巣するかもしれない個体に影響はないのかという心配が当然でできますけれど、何らかの影響はあると思いますが、繁殖行動に対してはさほど大きな問題はないのではないかと考えています。と言いますのは、数十年前から、タンチョウは個体数を増やして、こんな所にも思うような場所に巣を作っております。それでも卵を産みヒナを育てあげていますので、今後とも観察は大事ですが、影響はさほど大きくなかろうと思っています。ハチクマについては、日高山脈より西部では繁殖の記録も多くあるようですけれど、道東では記録は少ないです。今回の観察地周辺に定着しているのかどうか、今のところ断定できません。オオムシクイは以前メボソムシクイと報告されていたものです。図鑑などには森林性と書かれていますが、私が持っている記録では、案外、開けた場所で採られたものが多い。これは標識調査で、渡りの時期に開けた場所で採られた記録のためかもしれません

**加賀屋：**鳥類について飯嶋さんからまとめて状況を説明していただきました。山本さんからフクロウについて何かあればお願いします。

**山本：**ハチクマなどはあの辺りだと繁殖していてもいい場所ですし、そのほかのフクロウ類も恐らくあと 2 種類くらいは出てくるかなと思っています。残念というかシマフクロウが全然出てこない。河川の状況からみるといい所だとはちょっと言えない。今後の調査に期待したいところです。

**鏡：**キンメフクロウが調査の対象に挙がってきた経緯、あるいは現在どのような鳥として捉えられているのかこれを知りたいのですが。

**山本：**今までは迷鳥だろうと言われていましたが、各地で色々な調査で得られていて、色々な所

で確認されています。それが冬期だけでなく春期、5月頃でも確認が取れています。それで可能性として十分あると思います。どういう訳か、湖とか川に近い所によく出ています。我々はシマフクロウの関係で川に近い所は多いのですが、そういう所でよく確認されるのでオンネトーというところは湖がありますから可能性があると思います。森林を見るとクマゲラと共存みたいな形で、クマゲラの掘った穴で営巣することがある。多いといっても他のフクロウと比べればかなり少ないと思いますのでそういうことが判れば、なんらかの今後の対策も出てくるかなと思います。北海道でも2箇所ほど繁殖の確認はされています。十勝管内です。

**鏡：**十数年前に十勝三股の森林で声を聴いたが、それ以降ずっと聴いていない。あそこは特に開発などしていないのだが、人が何かしたことで居なくなってしまう鳥なのかなと、心配している種類だったものですから。

**山本：**大分前の話ですが、十勝三股で伐採されて倒した木の穴からヒナが出てきたことがあります。その話をご存知ですか。

**鏡：**知っています。その数年後に声を聴いている。

**山本：**そうですね。定着しているものもいるのかな。あの鳥はかなり移動する鳥です。何千キロも動いたりする鳥なのでどこまで定着してくれるかは、はっきり言えないですが、我々としては定着してほしいということがあります。

#### 【オンネトー地区道路環境保全会議】

**岩原：**雌阿寒自然塾としては、WSに参加していた時からオンネトー周辺に色々な学習の場を作って活動して参りたいということで活動の内容を説明させていただいた。この度の準備会の作り手は、先程からご意見ご提案のあったように、アメリカオニアザミがかなり広範囲に広がってというところのガイド的な活動の方針としては、外来植物の駆除あるいは防止をどのようにするかということがございますので、それは先程のご指摘の通りのことをどのようにこの場所でご意見などいただきながら、私達にとってどういう活動ができるのか、かなり難しいかなと思いますが。開花する問題のことも非常に参考になるし、また地域を限定してやっていく、どういう活動をしていくかということも本当にあるのかなという気もいたしますので、色々な意味で参考にさせていただきながら皆さんのご意見をいただきたいと思っております。

**持田：**市民参加型の外来種の抑制は、今回、アメリカオニアザミだけを話題にしておりますが、今回出てきた対象種の中で例えばオオハンゴンソウやオオアワダチソウを小学生が学校林で毎年10年間、掘り起こしを続けることによって根絶にほぼ成功している事例が帯広市内でもあります。アメリカオニアザミは駆除に非常に危険を伴うので、こどもから大人まで誰もが参加する事業というのはなかなか難しいかと思えます。他の外来種でそういったことは可能で、実際に実施されている種類もあります。そういったことを今後、市民参加型の取り組みの中でも検討いただくといいのかなと今日聞いていて感じたところです。

**加賀屋：**外来種の問題は国立公園周辺で外来種をこれ以上増やしてほしくないということであれば、今岩原さんを中心に行っています市民参加型の保全会議などを通して、長い目で見ていく必要があると、そのようなところが持田さんのご指摘だと思います。

我々としても保全会議の方をうまく生かしてバックアップして将来小学生と高校生の参加を考えているようですが、自然を楽しめるような仕掛けを考えていく必要があると思います。すなわち外来種駆除が主な目的ですがそれ以上に自然そのものを学習するというようなやり方もこれか

ら保全会議がその役割を果たしていけるといいと私は願っております。是非これは若い人を中心に生かしていけるような方法を作っていただければと考えております。

#### 【防 災】

**川内：**資料-7、P7 の昨年出た質問に対する答えですが、シェルターの話が出ています。意見に対する対応ということで、火山防災協議会担当部署である十勝総合振興局担当課というのはどちらでしょうか。

**加賀屋：**記載されている十勝総合振興局担当課とは具体的にどういう課という質問だと思いますが。

**建管：**防災協議会に参加している部署としては十勝総合振興局の地域政策課になります。毎年防災協議会を開催していることはホームページ上でも出ております。

**川内：**地域政策課ということですね、わかりました。

#### 【関係機関協議】

**川内：**資料-7、P16 に道路事業中間報告があります。関係機関協議とありますが協議とはどんな中身になるのか。森林管理署との協議とはどんなものなのか。環境省との協議とはどんなものなのか。

**建管：**森林管理署については、国有保安林内にありますので、工事の内容を管理署と打合せて、保安林内でこういう工事をする中でこういうものを作りますと言った協議を事前に行わなければならないということです。他にもありますが主なものとしてはそのようなことを予定しています。環境省については、国立公園内に道路建設するという事になっていきますので、これらにつきましても今後、国立公園内でこのような工事をしていく上での打ち合わせをしていくという事です。

**川内：**環境省の関係のところでは少し分からなかったのは、打合せなのか協議なのかですか。

**建管：**打合せです。

**川内：**こういう事業をやるからよろしく願いますという感じですか。

**建管：**あとはそれに伴ってどのような申請があるかなどの内容の確認を行います。

**川内：**あともう一点お願いします。前、発言していただいたことなのですけれど。先程の資料-7、3-1 の中間報告の協議という所ですが、環境省の方に伺いたいのですがこの協議についてのポイントは環境省側からとしては何なのか。

**環境省：**協議については、国立公園事業変更協議というものです。建設管理部さんがオンネトー線車道事業という道路を執行していて、今回、道路を作った場合はその事業の執行規模を大きくするという変更になります。よって、先程は打合せという話もありましたが実際は協議が必要となります。

**川内：**協議ですね、打合せという言葉ではないですね。

**環境省：**そうですね、うちのほうで協議をいただいてから公園計画とか国立公園管理計画とか決定規模などを総合的に審査して同意ができるかという所をこちらで判断して、できれば同意するという形です。

**川内：**ありがとうございます。

### 【計画道路】

川内：一つ確認なのですが、現在の計画道路に関して資料-7、P10 に出てくる国立公園との絡みですが、SP1,000 か 1,100 その辺り位までは、これは第二種の地域だと思うのですが青色にしてあり、右下の計画から外れている黄色は第三種と理解しています。第二種についていつも出てくる絵が非常に微妙なところがありますが、前に出た絵で確認したところですがもう一度確認させていただきたい。現道と計画道路は最初の部分が重なったとしても、例えばこの絵で言えば螺湾川からは完全に離れていますよね。どのように考えているかはそれぞれによって違いますけれど、全く別な場所を並行していますけれど離れているということでもよろしいですよ。

建管：国立公園内の計画道路につきましては、現道上もありますし現道のすぐ横に設置する計画もあります。

川内：そのすぐ横というのは、様々ですがどの位離れているのですか。

建管：今、細かい図面がないので分かりません。

川内：とにかく離れていることは離れている。間違いないですよ。離れている部分は明らかに針葉樹、エゾマツ・アカエゾマツ・トドマツというようなところに入り込んでいるというのは間違いないですね。重なっているかのように見えるので、あたかも現道の上を再び走っているかのように見えるが違うということですね。

建管：公園内は現道上もありますし、すぐ隣を計画している所もあります。両方あります。

川内：確認でした。一部理解していない方もいたので確認した、こういうことです。

加賀屋：他になければこれで終わります。